



みんなの回生

題字揮毫
元県知事・前川忠夫



- 看護部長ごあいさつ 2
- 満足度調査結果のご報告 2
- 皆様からのご意見の紹介 3
- 豪雨災害への対応（第1回） 4・5
- 患者様が望まれる生活の実現に向けて 6
一回復期リハビリテーション病棟のご案内ー

回生病院理念

皆さまに愛され信頼される病院を目指します

回生病院基本方針

- 一、私たちは質の高い医療を提供します
- 一、私たちは保健・医療・福祉と連携を図ります
- 一、私たちは予防医療の充実に努めます

患者さまの権利と責務

- 一、患者さまには、最善で公平な医療を受ける権利があります
- 一、患者さまには、医療内容について十分な説明と情報を受ける権利があります
- 一、患者さまには、医療行為について選択・同意・拒否する権利があります
- 一、患者さまには、個人情報を保護される権利があります
- 一、患者さまには、自らの健康に関する情報を提供する責務があります
- 一、患者さまには、病院の規則を守る責務があります

2020年
294号



社会医療法人財団 大樹会 総合病院 回生病院
坂出市室町三丁目5番28号
回生病院ホームページ <http://www.kaisei.or.jp/>

☎ 0877 (46) 1011 (代)
夜間の受付も行っています。

看護部長ごあいさつ

副院長 兼 看護部長 南原 愛子



この度、池内真理子看護部長の後任として、7月1日付けで副院長兼看護部長を拝命しました南原愛子です。自己紹介を兼ねて一言ご挨拶申し上げます。

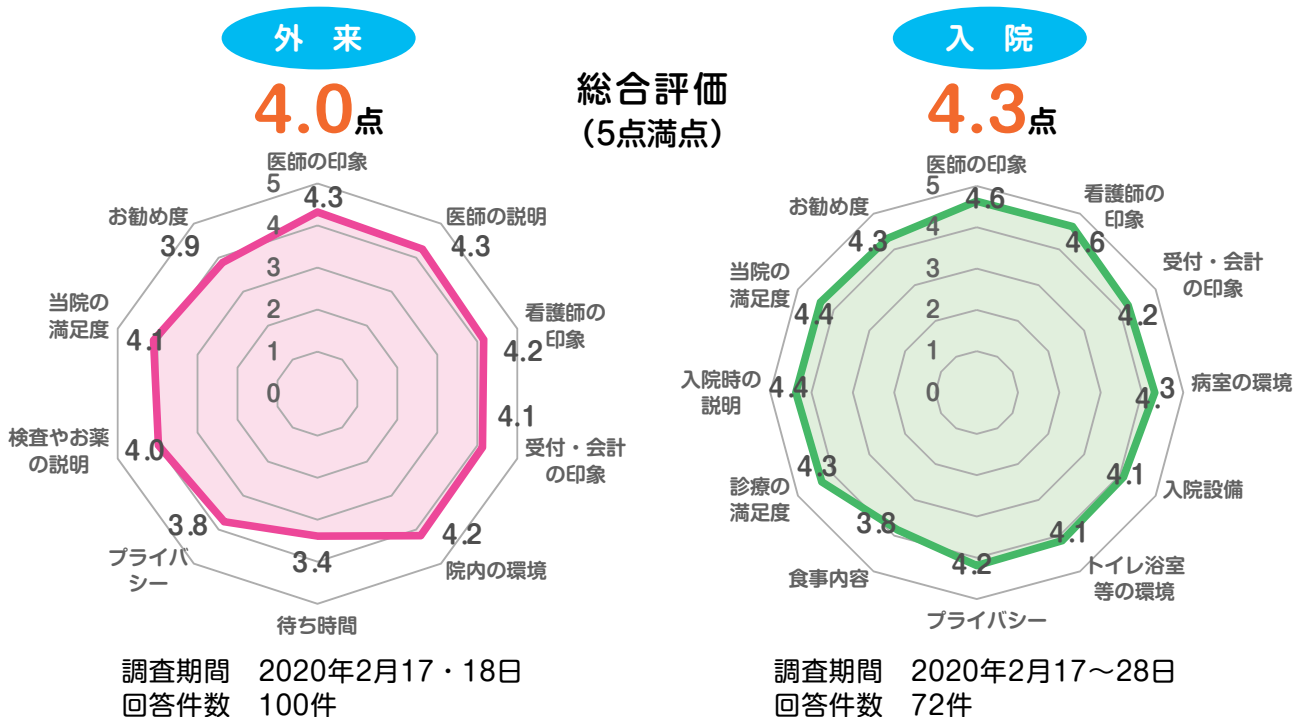
私は1984年に高松赤十字病院に就職し、高松赤十字看護専門学校での勤務も含めて36年間赤十字で勤務して参りました。3月に退職し、4月に回生病院に就職させていただきました。着任当初はコロナ禍のまっただ中で、受け入れ病棟をどうするかという課題に追われていました。7月には、熊本県集中豪雨災害。当院の災害医療派遣チーム（DMAT）出動には至りませんでした。災害拠点病院としての役割を考えさせられました。そして、コロナ第2波の襲来と、波乱の幕開けです。

今後は、「皆さまに愛され信頼される病院を目指します」という回生病院の理念を、看護部門としても実現するべく取り組む所存です。歴代の看護部長が大切にしてきた、「人として、看護専門職として品格を保ち一人ひとりが誇りと信念を持って看護部組織が一丸となって組織づくりをする」を実践していきたいと考えます。一人ひとりの看護職員が、それぞれの場で専門職としての力を発揮できるように、それが、患者さまや地域の方への貢献につながるようなことができるように支援していきたいと思ひます。人を大事にする経営戦略、人を大切にすることを忘れないように努力してまいります。

ご指導ご鞭撻賜りますよう宜しくお願い致します。

満足度調査結果のご報告

2020年2月に実施しました患者さん向けの満足度調査結果をご報告いたします。今回いただきました皆さんからのご意見を真摯に受け止め、今後の病院運営に活かしてまいります。この度はご協力いただき誠にありがとうございました。





皆様からのご意見の紹介



3月初めから5月末までの約3ヶ月間、大変お世話になりました。病棟課長さんをはじめ、看護師のみなさん、リハビリの先生方、ありがとうございました。

時々、リハビリがしんどくて休みたいなあと思う日もありましたが、常に体の具合を見ながら適切に筋トレを施して下さったり、優しく声かけして下さったりしたリハビリの先生方のおかげで頑張ることができました。時にはわがままを言ってしまったことあるかと思いますが看護師さん達には丁寧に優しく接して頂きました。本当にありがとうございました。

今はコロナで特に大変な業務になっていることと思いますが皆さん、どうぞお体に気をつけて。

いつも優しいトーンで話しかけてくれて心が落ち着きました。

分娩の時は鬼に見えましたが…本当にお世話になりました。

もし第4子ができたらまた、回生病院で産みたいと思います。ありがとうございました。

先生方をはじめ、看護師の皆様の温かい看護をいただき、無事退院できますことを心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

Aさん、Bさん、Cさん、ありがとうございました。よく気が付いて、やさしい気配りもいただき、みんなに元気な声を届けてくれて声が聞こえるととても安心でした。積極的に話しかけてくれて病室の中も明るく楽しく過ごせました。

これからも変わらず持ち前の明るさで患者の入院生活をHAPPYにしてください。



ご意見

時間が来ても診察に降りてこない。不愉快、何回もこんなことでよいのか！

【回答】

外来診察に関しまして、診察開始時間が遅くなるのが予測される場合は、開始可能な時間に合わせて、次回予約の相談をさせて頂いております。ご指摘頂いた医師の診察に関しましても同様の対応をさせて頂いております。

また、予約時間よりも早めにお越し頂いた場合も、診察開始時間が大幅に早まることは難しいと思われれます。ご理解を賜りますよう、お願いいたします。

今回は、2020年4月以降で、皆様からのお褒めの言葉を中心にご紹介させていただきました。心温まる励ましの言葉を寄せていただき、ありがとうございます。

ご意見箱に頂いた内容は、今回ご紹介させていただいたお褒めの言葉のほか、施設・設備に関する提案や日々の入院生活でお困りのこと、また、職員の接遇等に関するご指摘などでした。皆様の目には、すぐに変化がないことも多くあるかと思いますが、少しでも安心してご利用いただけるよう、努力して参りたいと思います。

引き続き、皆様からのご意見・ご提案を、1階患者相談窓口前や各病棟デイコーナーに設置のご意見箱、1階患者相談窓口等へお寄せください。

医療安全対策室



豪雨災害への対応（第1回）



副院長 兼 災害管理室長 関 啓輔

近年これまでの経験は通用しない豪雨災害が頻発しています。地球温暖化でインド洋や南シナ海の海水温が上昇し、大量の水蒸気を含んだ空気が日本に運ばれ、線状降水帯を作って各地に集中豪雨をもたらすようになりました。今ではどこで豪雨災害が発生してもおかしくないのが現状です。

豪雨災害による物的被害を軽減するには、河川工事や治水対策が必要ですが、こちらは行政の仕事です。個々の住民にとって、被害を軽減するためには“命を守る行動”が重要です。個々の住民が取れる“命を守る行動”には、災害発生以前の平時の段階で行っておくべき準備行動と、災害発生時に行うべき行動とがあります。平時の段階での準備には、緊急避難時の非常持ち出し品の準備や備蓄がありますが、これは次回の解説にします。それ以外の平時の準備としては、まずは自宅周辺のハザードマップの確認があります。

坂出市の洪水ハザードマップは、
city.sakaide.lg.jp/site/bousai/kouzuimap.html から入手できます。



『平成30年7月豪雨』では、倉敷市真備町の被災地域は、ハザードマップに示されていた浸水想定地域とほぼ一致していました。本年の豪雨災害における熊本県球磨村の浸水地域もほぼ同様でした。集中豪雨が発生した際に、自宅周辺がどのようなようになるのかを事前に知っておくことは命を守る行動の第一歩です。

自宅周辺で集中豪雨が発生した際には、市町村が出す警戒レベルを基に、適切な行動をとりましょう。気象庁などから出る河川水位や雨の情報を参考に、早めの行動が重要です。

福岡県大牟田市の例などでは、浸水深のレベルは道路冠水から約1時間で人の背の高さを超えるような急激な水位上昇を起こしています。過去の経験や想像を超えたスピードで事態の変化が起こっているため、素早い判断と早めの対応が必要となっています。

命を守るためには、『避難スイッチ』を早めに入れることが重要です。そのためには、

- ① 家族や親族に呼びかける
- ② 近所の人に呼びかける
- ③ 周辺の異変を素早く察知する
- ④ テレビやラジオで最新情報を入手すること

です。

! 避難とは難を避けること、つまり安全を確保することです。
安全な場所にいる人は、避難する必要はありません。

また、避難先は市町村の「指定避難場所」だけでなく、安全であれば親戚や知人宅に避難することも考えましょう。新型コロナウイルス感染についても考慮し、密にならないよう配慮することが大切です。平時からどこに避難するかを決めておくことは重要で、避難場所までの経路に危険はないかなどを知るため、「防災散歩」などをしておくことも良いでしょう。

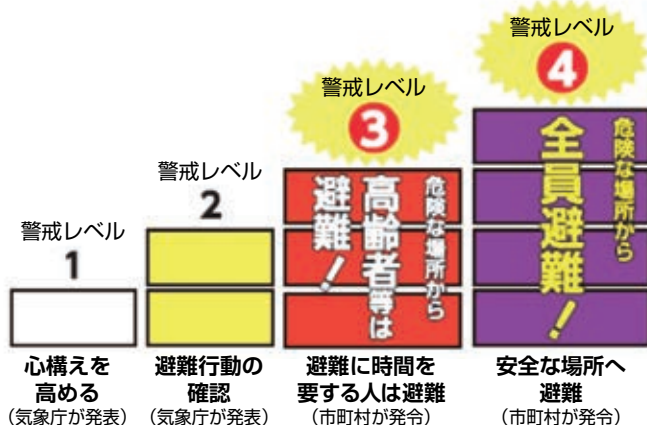
避難に時間を要する**高齢者等は警戒レベル3で避難を開始しましょう**。また、**警戒レベル4が出された場合には、全員が避難の対象になります**。しかし、安全な場所にいる人は避難の対象ではありません。**警戒レベル5はすでに災害が発生しています**。移動にも危険を伴うため、垂直避難など自宅の少しでも安全な部屋への移動や近くの安全な建物への移動等、命を守るための最善の行動をとることが必要です。

■ 市区町村が出す警戒レベルで確実に避難しましょう
気象庁などから出る河川水位や雨の情報を参考に自主的に早めに避難をしましょう

名称：警戒レベル 発信者：市区町村等 内容：避難情報等		名称：警戒レベル相当情報 発信者：気象庁や都道府県等 内容：河川水位や雨の情報	
警戒レベル	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報（警戒レベル相当情報） 浸水の情報（河川） 土砂災害の情報（雨）
5	命を守る最善の行動	災害発生情報	5相当 氾濫発生情報 大雨特別警報（土砂災害）
4	危険な場所から 全員避難	避難勧告 （避難指示（緊急））	4相当 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報
3	危険な場所から 高齢者などは避難	避難準備・ 高齢者等避難開始	3相当 氾濫警戒情報 洪水警報 大雨警報
2	ハザードマップ等で 避難方法を確認	大雨注意報 洪水注意報	2相当 氾濫注意情報
1	最新情報に注意	早期注意情報	1相当

※「避難勧告等に関するガイドライン」の趣旨を変えずに、より分かりやすい表現にしています。

市区町村長は、警戒レベル相当情報（河川や雨の情報）のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に警戒レベル（避難情報）の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。



警戒レベル4避難勧告で危険な場所から避難です

警戒レベルは、水害や土砂災害に備えて住民がとるべき行動をお知らせするために5段階にレベルを分けたもので、市区町村が避難情報と合わせて出す情報です。



患者様が望まれる生活の実現に向けて



— 回復期リハビリテーション病棟のご案内 —

リハビリテーション部 課長 矢野 誠二

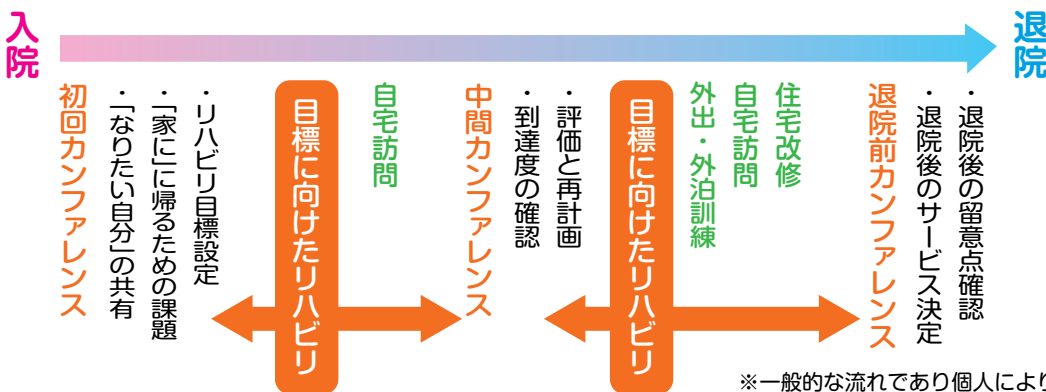
入院治療を余儀なくされた患者様が住み慣れた地域で生活するためには病気やけがの治療だけでなく、日常生活への自信を取り戻していただかなければなりません。

しかし、住み慣れた地域や社会環境へ復帰することは、簡単のように見えて実は複雑です。歩くことを例にとりて考えてみましょう。

自分の居室を歩く、屋内を歩く、敷地内を歩く、地域（自治会）内を歩く、はたまた旅行地を歩くなど、歩く場所は多岐にわたります。また、シルバーカーで歩く、杖で歩く、手すりに掴まって歩く、物を担いで歩くなど様々な歩き方を要求されます。バッグを持って歩く場合、そのバッグは手提げかショルダーバッグかリュックサックかなど、持つものによっても歩く姿勢は変化します。その他にも、隣の人とテンポを合わせて歩く。急に減速・加速または立ち止まる。呼ばれた方向へ振り返る。また、雨の日の屋外なら水たまりをまたぐなんて動作も必要になるかと思えます。同じ「歩く」でも踏ん張っているのか？など、獲得しなければいけない身体機能は複雑に絡み合っています。

回復期リハビリテーション病棟では、患者さまご本人が望まれる生活が続けられるよう他職種でアプローチします。下の図は、病気やけがの急性期治療が解決期に入り、自宅へ帰ろうとする患者様が回復期リハビリテーション病棟を希望された際の退院までの予定です。

■入院から退院まで



病棟では医師、看護師、リハビリ療法士、メディカルソーシャルワーカー、管理栄養士など多職種がカンファレンスという話し合いの場で情報を共有し、目標を決めます。カンファレンスは退院までの数ヶ月の間に複数回行います。話し合った内容を患者様にご提案させていただき、目標を達成するためのお手伝いをさせていただこうと考えております。

自宅退院に不安をお持ちの患者様は回復期リハビリテーション病棟をご検討されてはいかがでしょうか？

